

# 政策分析の焦点 24-10 米国関税引上げのアフリカ経済への影響<sup>1</sup>

2025年2月

川崎研一  
政策研究大学院大学 政策研究院教授

## I. 始めに

米国トランプ大統領は、1月の就任に当たって世界の全ての経済からの輸入に対して関税を上げると意図表明としていたが、その発動は見送られている。一方、米国は2月には、カナダ、メキシコからの輸入への関税を25%上げ、また、中国からの輸入に対しては10%の追加関税を賦課し始めた。

懸案となっている関税引上げの発動では、第1次トランプ政権とは大きく異なって、米国の関税は全ての経済からの全ての財の輸入に対して上げられる可能性があり、発展途上経済にとってもその発動や影響が懸念されている。本稿では、応用一般均衡 (CGE: Computable General Equilibrium) 世界貿易モデル<sup>2</sup>を用いたシミュレーション分析によって、米国の関税引上げがアフリカ経済に与える影響を定量的に考察する。

## II. 経済への影響

米国による全ての財に対するカナダとメキシコからの輸入には25%、また、中国からの輸入に対しては10%の関税増加(加墨25中10)は、表1に示される通り、米国の実質GDPを1.19%減少させると推計されている。一方、中国の実質GDPの減少は0.31%に留まるものの、カナダ(▲3.16%)とメキシコ(▲14.09%)の実質GDP減少はかなりより深刻になろう。ただし、ほとんどのアフリカ経済では、日本や欧州連合(EU:

---

<sup>1</sup> 本稿は、川崎(2025)、「更なる米国関税引上げの経済的影響」、GRIPS Discussion Paper 24-13, 政策研究大学院大学、2025年1月の補論である。本稿における見解は、筆者個人のものであり、政策研究院、また、筆者が所属する組織としての見解を示すものではない。

<sup>2</sup> モデル・シミュレーションの枠組は川崎(2025)から変りない。世界貿易分析プロジェクト(GTAP: Global Trade Analysis Project)の第11c版データベースを基に、GTAP第7版モデルが資本と労働の動的な効果を織込んで、GEMPACKソフトウェア(Horridge, Jerie, Mustakinov & Schiffmann (2018), GEMPACK Manual, ISBN 978-1-921654-34-3を参照)を用いて解かれている。GDPと人口のベースラインのデータは、国際通貨基金(IMF: International Monetary Fund)の2024年10月の世界経済見通し(WEO: World Economic Outlook)データベースを基に2025年のものに更新している。

表1 実質GDPに与える影響

					(%)
	加墨25中10	世界10		加墨25中10	世界10
米国	-1.19	-1.50	カナダ*	-3.16	-1.27
メキシコ	-14.09	-4.43	中国	-0.31	0.05
日本	0.78	0.00	EU	0.47	0.01
アルジェリア	0.20	-0.19	エジプト	0.38	0.06
リビア	-0.04	-0.79	モロッコ	0.31	0.11
チュニジア	0.53	0.44	ベナン	0.50	-0.09
ブルキナファソ	0.35	0.21	カメルーン	0.26	0.06
コートジボワール	0.26	0.06	ガーナ	0.18	-0.13
ギニア	0.72	0.38	マリ	0.11	-0.02
ニジェール	0.14	0.14	ナイジェリア	0.06	-0.44
セネガル	0.66	0.34	トーゴ*	0.54	0.06
アンゴラ	-0.20	-1.17	中央アフリカ共和国	0.01	0.02
チャド*	-0.01	0.11	コンゴ共和国	0.05	-0.28
コンゴ民主共和国	0.14	0.03	赤道ギニア	0.65	-1.82
ガボン	0.13	-0.13	コモロ	0.30	0.30
エチオピア	0.25	0.02	ケニア	0.82	0.09
マダガスカル	0.21	0.15	マラウイ	0.18	0.00
モーリシャス	0.34	0.12	モザンビーク	0.29	-0.12
ルワンダ*	0.10	0.01	スーダン	0.25	0.05
タンザニア	0.22	0.04	ウガンダ	0.35	0.10
ザンビア	0.18	0.16	ジンバブエ	0.21	0.08
ボツワナ	0.58	-0.49	エスワティニ	0.14	-0.06
ナミビア	0.15	0.06	南アフリカ	0.23	-0.05
レソト	1.88	-0.57	アフリカ合計	0.28	-0.06

注：\*は西サハラと\*\*はサントメ・プリンシペとの複合地域で代理。

出所：筆者によるシミュレーション。

European Union) の状況と同様に実質 GDP は増加し、アフリカの実質 GDP の合計を 0.28% 増加させる可能性がある。そういった増加の一因には貿易転換効果が考えられる。カナダ、メキシコ、中国から米国への輸出に替って、第 3 者からの輸出は増加することになる。

一方、米国による 10% の追加関税が全ての経済に適用されると(世界 10)、日本や EU のように、アフリカでは実質 GDP の増加が縮小したり、総じて米国より小幅ではあるものむしろ減少したりする可能性が示されており、アフリカの実質 GDP の合計は 0.06% 減少すると推計されている。アフリカ経済の貿易結合度指数 (TII: Trade Intensity Index) は、域内(4.2 程度)で高く、アフリカの主な貿易相手ではインド(2.7 程度)と中国(1.5 程度)が続いているが、米国(0.5 程度)に対しては低くなっており、アフリカは米国の貿易政策の悪影響はさほど受けない可能性がある。

経済別には、実質 GDP は赤道ギニア(▲1.82%)で最も大きく減少し、アンゴラ(▲

1.17%)、リビア(▲0.79%)、レソト(▲0.57%)、ボツワナ(▲0.49%)、ナイジェリア(▲0.44%)が続くと推計されている。一方、チュニジア(0.44%)に続いてギニア(0.38%)、セネガル(0.34%)では実質 GDP が増加する可能性がある。各経済間の経済的影響の相違は、以下で論ずる通り、産業別の貿易構造の相違を反映していると考えられる。アフリカ経済における実質 GDP の変化と 1 人当たり GDP の間には弱い負の相関関係(相関係数は-0.28)が見られている。アフリカ経済間の所得格差は必ずしも米国の関税引上げによって増幅されないことが示唆されている。

### III. 産業への影響

マクロ経済レベルでの影響に比べて、産業別の影響はより大きくなろう。関税の引上げには自由貿易を阻害し、効率的な資源配分を歪曲することが懸念されている。米国が世界的に 10%の追加関税を賦課すると、世界の米国向けの財輸出は 19.1%減少し、農林水産業(▲7.4%)、加工食品(▲12.0%)の輸出減少は他の部門より小さいも

表2 主な産業の生産への影響

	農林水	鉱業	食品		農林水	鉱業	食品
米国	-0.97	-0.22	-0.79	カナダ	0.07	-0.47	-1.58
メキシコ	-0.45	-0.32	-2.63	中国	0.01	-0.31	0.03
日本	0.12	-0.66	0.18	EU	-0.12	-0.47	-0.21
アルジェリア	-0.15	-0.24	0.09	エジプト	-0.01	-0.35	0.06
リビア*	-0.32	-0.74	0.13	モロッコ	-0.13	-0.74	-0.02
チュニジア	0.00	-0.49	0.20	ペナン	-0.06	-0.76	-0.11
ブルキナファソ	0.02	-0.52	0.04	カメルーン	0.00	-0.26	-0.04
コートジボワール	-0.13	-0.32	-0.09	ガーナ	-0.14	-0.36	-0.09
ギニア	-0.01	-0.37	0.15	マリ	-0.01	-0.29	0.02
ニジェール	0.02	-0.35	-0.12	ナイジェリア	-0.15	-1.04	-0.39
セネガル	0.02	-0.57	0.08	トーゴ	-0.01	-0.92	0.00
アンゴラ**	-1.11	-1.07	1.43	中央アフリカ共和国	-0.01	-1.00	-0.03
チャド	-0.11	-0.33	-0.10	コンゴ共和国	-0.19	-0.27	0.56
コンゴ民主共和国	-0.03	-0.35	0.01	赤道ギニア	-0.05	-0.76	-1.40
ガボン	0.10	-0.28	0.10	コモロ	-0.05	0.00	0.19
エチオピア	0.00	-0.60	-0.02	ケニア	-0.05	-0.40	0.08
マダガスカル	-0.17	-0.27	0.40	マラウイ	-0.05	-0.63	0.36
モーリシャス	-0.25	-1.03	0.02	モザンビーク	-0.14	-0.31	0.71
ルワンダ	-0.05	-0.98	0.01	スーダン	0.02	-0.95	0.07
タンザニア	-0.03	-0.55	0.08	ウガンダ	0.00	-0.28	0.01
ザンビア	-0.08	-0.35	-0.07	ジンバブエ	-0.01	-0.39	0.19
ボツワナ	0.13	-0.51	0.32	エスワティニ	0.03	-0.46	0.05
ナミビア	0.02	-0.66	0.17	南アフリカ	0.00	-0.47	-0.03
レソト	0.15	-0.48	0.04	アフリカ合計	-0.15	-0.52	-0.01

注:\*は西サハラと\*\*はサントメ・プリンシペとの複合地域で代理。

出所: 筆者によるシミュレーション。

の、鉱業(▲28.6%)で最も大きく減少すると推計されている。

アフリカ経済全体では、農林水産業、鉱業、加工食品の生産が各産業の生産合計に占める割合が高く、これら3つの産業で財の生産の70%程度を占め、それらの産業の世界平均の割合よりも高くなっている。また、輸出の顕示比較優位(RCA: Revealed Comparative Advantage)指数は鉱業(4.4程度)が最も高く、農林水産業(2.7程度)、金属(1.9程度)が続いている。

以上の主な3つの産業の生産に与える影響は表2に示される通りである。農林水産業の生産は多くのアフリカ経済で減少し、1.11%の減少から0.15%の増加となり、アフリカ全体では0.15%減少すると推計されている。また、鉱業の生産はほとんどのアフリカ経済でより大きく減少し、最大で1.07%減少し合計では0.52%減少すると推計されている。一方、加工食品の生産は多くのアフリカ経済で減少せず、1.40%の減少から1.43%の増加の範囲となり、合計ではほぼ変わらない(0.01%の減少)と推計されている。

アフリカでは繊維・衣料の生産も0.37%減少すると推計<sup>3</sup>されている。一方、以上の3つの産業に比べて各産業の生産は少ないものの、その他の軽工業(0.15%)、化学製品(0.49%)、金属(0.84%)、自動車及び部品(0.76%)、電子機器(0.42%)、その他の機械・設備(0.96%)の生産は増加する可能性がある。

#### IV. 終わりに

米国による関税引上げは、対象とされる経済が世界的に拡大すると、アフリカを含めた発展途上経済にも悪影響を及ぼす可能性がある。特に、農林水産業、鉱業など、国際的に競争力を有してきている産業の生産が減少することが懸念されよう。第2次ランプ政権における関税引上げは始まったばかりである。関税の標的とされる経済や産業が注目される。関税引上げ始めとした貿易政策の経済効果を評価するため、経済モデルを用いた定量的なシミュレーション分析が有益と考えられる。

---

<sup>3</sup> 表2に示されていない各経済の生産に与える影響の推計結果などは、必要に応じて、筆者への要請により入手が可能である。